

福祉体験をしました！ ～車いす・アイマスク体験で感じたこと～

15日(木)に福祉体験として、車いす・アイマスク体験をしました。「人権学習の日」や道徳の授業で、障がいのある方々の思いや、その家族の思いなどについての資料を読む機会は多いですが、なかなかその思いに迫ることはできません。そんな思いに少しでも近づける体験をしてほしいと考え、今回、福祉体験を実施しました。

篠山市社会福祉協議会の職員とボランティアの方々に来ていただき、車いすの扱い方、介助の仕方、目の不自由な方への介助の仕方や声かけについて学びました。車いすに乗っていても、アイマスクをしていても、みんなは危険を感じたらすぐに立ち上がったり、アイマスクを外すことができます。しかし、実際に歩けない、目が見えない人はそんなことはできません。そういった意味では、真の思いを経験することはできませんが、少しでも障がいのある方々の思いに近づき、周りにいる者として何ができるのかを考える機会になっていれましょうと思います。

誰しも、いつ足や目が不自由になるか分かりません。自分でなくても、家族や身近にいる人がそうなるかもしれません。人ごとととらえずに、今回感じた不安や怖さを忘れないでほしいと思います。

【感想より】

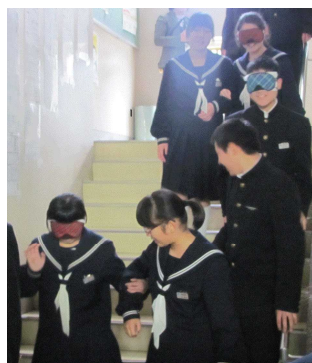
☆車いすを押すのも乗るのも初めてで怖かったけれど、押す方ではゆっくりと進行して声かけができたのでよかったです。アイマスクでは、目が見えないととても怖くて補助があっても本当に信用しきっていないといけないなあと思いました。今回、二つの体験をして、足が不自由な方や目が不自由な方の大変さなどが少しでもわかった気がします。だから、今日習ったことを忘れずに、もしも手伝わないといけない状態になったら十分に発揮できるようにしたいと思います。



☆私は車いすに乗ったことがあります。でも、今回のような段差を通ることは体験するのは初めてでした。後ろに傾いた時にとても怖くて、友だちを信じていない訳ではないけれど、倒れそうで怖くて怖くて仕方なかったです。車いすに乗って自分でこいでみて、まっすぐにこいでいるつもりなのに、違うところに行ってしまう、坂を一人で動き回っていたらとても大変疲れるだろうなと体験してみて初めて知りました。

☆アイマスク体験では、となりに人がいるだけですごく心強かったです。一人なら歩けなかったと思いますが、となりの人が手伝ってくれ、声をかけてくれて階段も平らなところも安心して歩くことができました。

☆アイマスク体験では、目が見えない人に声をかけないといけないと相手が驚いてしまうので、大切なことだと思いました。アイマスクをつけた時に、声をかけてくれたので、安心して歩けたり、階段を上ったりできました。目の見えない人も車いすに乗っている人にも声かけが大事だと学びました。だから、困っている人を見かけたら、声をかけて助けられるように意識したいです。



☆アイマスク体験では、前が見えなくなるので、お手伝いする時は自分のことだけを考えると、目が不自由な人が物にぶつかってしまうので、相手のことも考えていけるようにしたいです。今日の体験の時に自分や、全体的に真剣さが足りないと感じました。真剣にやらないと危険なので真剣にやっていきたいです。

☆今回の車いす、アイマスク体験で自分が思っている以上に目や足が不自由になることは大変だということがわかりました。特に段差では一人では上ったり下りたりできないし、学校の階段はどのくらいの段差があるかわかっていて手すりがあっても足を踏み外して落ちてしまうかもしれないなあと思いました。最後に教えていただいた声のかけ方にも気がつけたいです。「大丈夫ですか」と聞かれたら、自分も大丈夫ですと答えてしまうと思うので、「お手伝いしましょうか」と積極的に声をかけられるようにしたいです。